

平成29年度 行政評価事業別シート

実計対象		■	評価対象	■	新規	□	完了事業	□	ゼロ予算事業	□	担当者	北澤知子
全体計画						経費区分	実施計画事業費		内線		3645	
事務事業名		4301 農業小学校運営事業										
所 属		300200 教育委員会事務局・子ども課										
施 策		02010800 児童・青少年健全育成の推進										
予 算		01 一般会計										
科 目		100606 教育費・社会教育費・児童青少年総合対策費										
事 業		040000 農業小学校運営事業										
事業目的						事業概要・効果						
子どもたちが、農業の厳しさや楽しさを体験し、たくましい精神力・創造力などを身につけ、世代間交流を通し、仲間づくりや地域連帯感を養い、地域の文化に触れる。						農業体験を通じ、「農業」の厳しさ、楽しさ、食の有難さを知ることとあわせ異年齢の子ども達や大人達と触れ合うことによるコミュニケーション能力を身に付け、子どもたちの健全な成長の一助とする。						

PLAN-DO

年度実績及び予定

平成27年度 実績	平成28年度 実績
コミュニケーションの活性化、授業の充実を図るため適正な人数を募集した結果、34人が参加した。	年間18回の授業を計画し募集をしたところ21組の参加申込みがあった。
平成29年度 予定	平成30年度 予定
コミュニケーションの活性化、授業の充実を図るため適正な人数を募集	
平成31年度 予定	平成32年度 予定

指 標 名	無し				
算 式					単位
年 度		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
目 標 値	目 標				
	実 績				
指標選定の理由					
最終年度 目標の根拠					
指 標 名					
算 式					単位
年 度		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
目 標 値	目 標				
	実 績				
指標選定の理由					
最終年度 目標の根拠					
指 標 名					
算 式					単位
年 度		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
目 標 値	目 標				
	実 績				
指標選定の理由					
最終年度 目標の根拠					
指 標 名					
算 式					単位
年 度		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
目 標 値	目 標				
	実 績				
指標選定の理由					
最終年度 目標の根拠					

事業費

(単位：千円)

		平成28年度 決 算	平成29年度 予 算
事業費		1,012	813
特 定 財 源	国庫支出金	0	0
	都道府県支出金	0	0
	地方債	0	0
	その他	907	693
一般財源		105	120
人員数 (人)	正規職員	0.3	0.3
	嘱託職員	0.8	0.8
	臨時職員	0.0	0.0
人 員 コスト	正規職員	2,165.7	2,165.7
	嘱託職員	2,204.0	2,204.0
	臨時職員	0.0	0.0
	計	4,369.7	4,369.7
市民一人当たりの経費		0.1	0.1
総額		5,381.7	5,182.7

(単位：千円)

平成28年度決算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	0	
11節 需用費	144	消耗品費
13節 委託費	500	農地管理運営委託
15節 工事請負費	0	
19節 負担金補助及び交付金	0	
その他	368	旅費275、役務費(保険料等)68、土地借上料25

(単位：千円)

平成29年度当初予算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	0	
11節 需用費	150	消耗品費
13節 委託費	500	農地管理運営委託
15節 工事請負費	0	
19節 負担金補助及び交付金	0	
その他	163	旅費、役務費(保険料等)、土地借上料

CHECK

個別評価		
項目	評価観点	評価内容
必 要 性	・ 市民の生命・財産を守るため市が実施することが必要不可欠な事業であるか ・ 行政内部の管理運営上必要な事業であるか ・ 市が主体となり実施すべき事業か ・ 法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか ・ 目的は結果（施策の目指す理想）に結びついているか	やや低い
評 価 コメント	法的根拠はない。 市が主体的に関与する必要はない。 世代間交流および自然体験をする場としては有効。	
有 効 性	・ 事業の成果は上がっているか ・ 目標に対する達成度は十分か ・ 市民生活上の課題解決に貢献しているか ・ 行政内部の管理上の課題解決に貢献しているか ・ 事業の目的が達成できるような事業内容になっているか	有効
評 価 コメント	自然体験を通じ社会性を育み食育に貢献している。 児童が地域の高校生や農家先生に教わりながら活動することで、世代間交流ができている。また、保護者にも一緒に参加・体験してもらうことで、自分の子どものみならず、他人の子どもにも目を配り行動するように変化している。	
効 率 性	・ 成果を落とさずにコストを削減する方法はあるか ・ 効率性向上に努めているか ・ 使用料などの受益者負担や補助対象事業の範囲など、財源確保の余地はないか	やや悪化
評 価 コメント	本来は受益者負担が原則と考える。 委託料を支払っているが、何かと事務局(市)に頼る場面があることが課題。	

振り返り（決算年度の取組み課題）

本事業のあるべき姿は、民設民営。行政は協力という形だと考える。
 しかし、なかなかそうはいかない現状がある。

ACTION**1次評価**

次年度以降の方向性	総合計画に沿って継続
総合評価コメント	
農家先生の高齢化、将来的な担い手不足を考慮しながら、委託事業として行政の関わり方を検討する必要がある	

2次評価

次年度以降の方向性	総合計画に沿って継続
2次評価コメント	
農業や自然体験を通して、子どもたちは先生である高齢者や高校生と接し、得難い多くのことを学んでいる。当市の健全育成事業としても特徴的で有用な事業であり、順次課題を解決しながら継続する必要がある。	

外部評価

次年度以降の方向性	
外部評価コメント	